

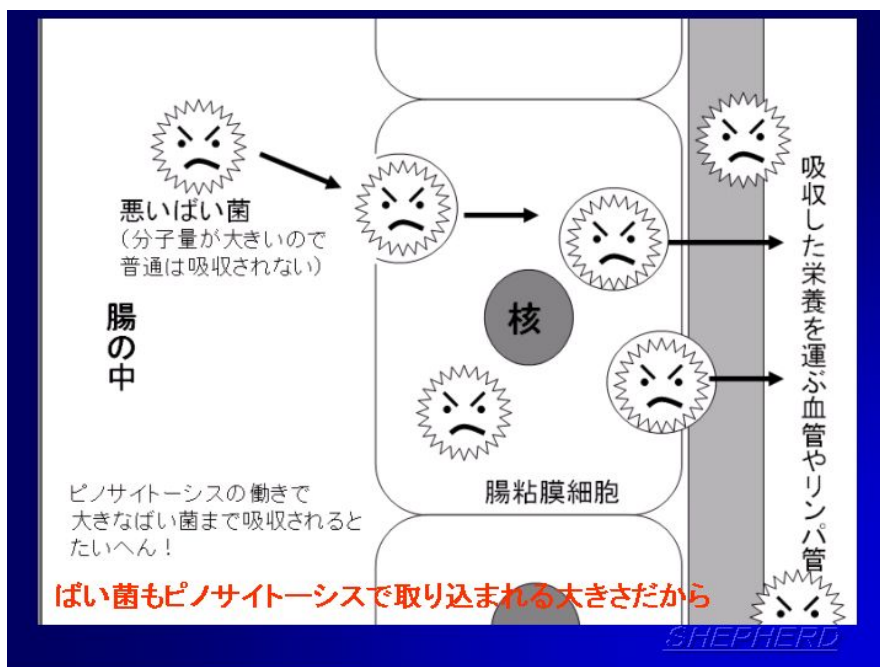
繁殖のお話し(その12 初乳のおはなしの続き)

(有)シェパード 獣医師 松本大策

ずいぶん暖かくなってきましたね。春は心がうきうきとして、何か新しいことをはじめようかな？という気になってきます。僕も、これから少し農業や草作りの勉強をはじめようかと思っています。だって、繁殖のお母さんの指導をしているのに、草1つ作ったことがないというのも無責任ですもんね。みなさんの草作りのご苦労とか、こうしたらよい草が取れるとか、こうやって農薬を減らしてる、とかの情報があれば、うちのHP(URLは<http://www.shepherd-clc.com/>)の掲示板でもメールでもよいのでどんどんご紹介下さい。逆に、こういう事で困っている、というのも教えていただければ、みんなで解決できるかも知れません。ネットのよいところは、こうしてみんなと意見交換できる場所ですよ。

母牛の繁殖のお話し 12

さて前回は「初乳が腸の粘膜の表面をコーティングしてくれることの意味」をまたまた持ち越してしまいましたね。「衝撃の事実！ピノサイトーシスは両刃の剣だった」という、サスペンス劇場の前振りみたいな文章で終わらせちゃいました。なんか僕の文章ってダラダラですみませんね。



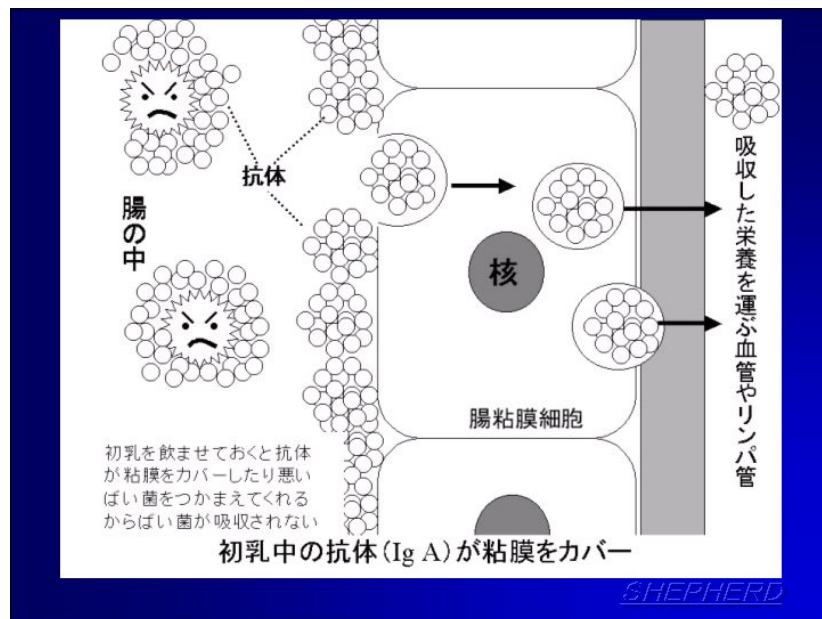
じつはピノサイトーシスで吸収できるのは免疫抗体だけではないんです。牛小屋って無菌室じゃないでしょ？いろんなばい菌がウヨウヨいます。

これらのばい菌は、普通腸の粘膜の表面にとりついてただけで下痢をさせたり血便させたり、いろんな悪さをす

るんです。ところが、ピノサイトーシスは、この悪いばい菌まで「いらっしやいませー」と



血液の中まで運んでしまうんです。するとどうなるか？初乳を飲んでいない赤ちゃん牛は、まだばい菌をやっつける力(免疫抗体)がありません。それなのに血液の中では悪いばい菌が暴れ回ってしまう。せつかく生まれた赤ちゃん牛が、いわゆる敗血症を起こして死んでしまうのです。「元気で生まれたのに翌朝見たら死んでた」というのも、こういうケースが多いのです。



それではどうしたらよいのでしょうか？って、答えは決まっていますよね。生まれたら、なるべく早く一口でもいいから初乳を飲ませる！につきます。初乳の中には免疫抗体が何種類も入っているというお話をしましたが、このうちのIgGという抗体がピノサイトーシスで血液の

中に取り込まれて身体を護ってくれるのに対し、IgAという抗体は、消化管粘膜をコーティングしてばい菌を入り口でブロックしてくれるのです。初乳を搾るのは大変ですが、ビニール袋を手に粘着テープで貼り付けておくと比較的安全に搾ることができます。こちらは連続写真かビデオの方が解りやすいと思いますから、写真がそろったら、このサイト(tikusan.com)かシェパード中央家畜診療所のホームページ(URLは<http://www.shepherd-clc.com/>)に掲載するようにします。

